

長野県木曾青峰高等学校 平成28年度第2回学校評議員会 記録

日時 平成29年3月16日(木) 午後3時30分から午後5時

場所 木曾青峰高等学校同窓会館

出席者 学校評議員 同窓会長・同窓会副会長・PTA会長・PTA文化委員長
定時制教育振興会長・木曾町子ども家庭相談室相談員
学校職員 校長・全日制教頭・定時制教頭・全日制教務主任・定時制教務主任
進路指導主事・生徒指導主事・1学年主任・2学年主任・3学年主任
森林環境科主任・インテリア科主任

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校からの報告

4 学校評議員からの質問・意見・要望等

(評議員) 各科の課題研究は、県が進めている信州学と関わりがあるのか。理数科課題研究は、いつから行っているのか。

■県が進めている信州学ではない。理数科課題研究は、理数科が設置されたときから行っている。森林環境科・インテリア科では、信州学の内容を取り入れている授業もある。

(評議員) 信州学の趣旨は、賛同できる。木曾学という形で、是非地域についても研究してほしい。

■学びの改革が求められており、今後校内でも検討していかなければならない。例えば、信州学を総合的な学習の時間や課題研究の中にどのような形で取り入れ、結びつけていくかを研究したい。

今年の文化祭では、1年生が調べ学習ということで木曾について展示発表した。また、理数科課題研究でも、木曾の観光について取り組んだ。

(評議員) スクールマガジンは、郡内の中学校には積極的に配布してほしい。

■郡内の中学校には、毎回配布している。

(評議員) スマホ関連の問題は現在避けて通れない。中学校に働きかけスマホに関する授業を取り入れてもらうとか、ゲーム会社に講演依頼をしてみてもどうか。スマホの取扱いについては、常に生徒に訴えかけていく必要がある。

■全国にはスマホを学校に持ち込みを禁止している県もある。長野県の高校にも幾つかあるようだが、今後はスマホ持ち込み禁止が進んでいくかもしれない。本校は、考査中の対策はきちんとしている。

(評議員) スマホ(携帯)をクラスの連絡網に利用していないのか。

■固定電話で作成している。(参加担任)

(評議員) 木曾にある企業が毎年求人を出しているが、生徒が希望していないようだ。生徒は木曾の企業について知っているのか。

■今年度、進路ガイダンスの時に一日木曾郡内の企業見学に出掛けている。今後、1年次に木曾の企業について調べ、発表させる機会を考えていきたい。

(評議員) 挨拶をしてくれる生徒が多く気持ちが良い。青峰高校でしっかり育てほしい。

青峰高校では、経済的に困っている生徒の割合はどの程度か。孤立している生徒はいるのか。それらが生徒の心の負担になっていないのか。

■経済的に苦しい家庭の生徒は確かにいる。学校徴収金を集金できない家庭もある。

当然カウンセリングが必要になる生徒もいるが、体制作りはできている。

本年度導入した「アセス」には、孤立感についての質問項目があり、問題がある生徒は学年会で報告し職員間で共有し対策を講じている。

(評議員) 理数科課題研究発表会と定時制生活体験発表会に参加させていただいた。特に、理数科の発表は

すばらしかった。中学生にも見てもらう機会があればよい。また、森林環境科およびインテリア科の展示会も内容がすばらしいと聞いている。こちらも多くの中学生に見てもらえるような工夫をしてほしい。

■関係部署で検討していきたい。

(評議員) 学校評価の依頼を受けたが、大変困った。評価をできる材料をもっていなかったため、今年度は辞退した。事前に様々な資料をいただければ判断の材料になるので、工夫をしていただきたい。

■昨年度も同様な意見をいただいた。今回の資料を事前に郵送するのは厳しが、今後検討していきたい。

5 終わりの挨拶（校長）

6 閉会